

2024 年度「書物との出会い（口）」（女と男）リーディングリスト

*各項目に含まれる内容 (1) 書誌情報 / (2) その本が関連する学問領域 / (3) キーワード : その本が関連するテーマなど / (4) 本の難易度 : 0~3まで (数が大きいほど難易度が高い) / (5) 推薦した教員のコメント / (6) 推薦者の名前、所属

- (1) 長谷川真理子 (1999) 『オスの戦略メスの戦略 (NHK ライブラリー)』日本放送出版協会、絶版、ISBN: 978-4140841044
- (2) 学問領域 : 進化生態学、行動生態学、進化心理学
- (3) キーワード : 進化、有性生殖と無性生殖、自然選択と性選択
- (4) 難易度 1
- (5) 性は繁殖のためにあると誰しも思いがちであるが、二分裂して増える細菌のように性なしで繁殖する生物がいる。そのような祖先型からどのようにして、また何のために性が生じ、雄と雌に二極化し、それが男と女になったのか、進化生物学の見地からこの本は教えてくれます。
- (6) 推薦者 : 安井行雄 (農学部)

- (1) 長谷川寿一・長谷川真理子 (2022) 『進化と人間行動』(第2版) 東京大学出版会、ISBN: 9784130622301
- (2) 学問領域 : 進化生態学、霊長類学、人類学、進化心理学
- (3) キーワード : 人間性の起源、人類の進化
- (4) 難易度 3
- (5) 進化生物学の基礎知識から説き起こし、人間性とは何か、どのようにして動物から人間は生まれたのかを解説する「進化心理学」の代表的教科書
- (6) 推薦者 : 安井行雄 (農学部)

- (1) 長谷川真理子 (2023) 『進化的人間考』東京大学出版会、ISBN: 9784130639552
- (2) 学問領域 : 進化生態学、霊長類学、人類学、進化心理学
- (3) キーワード : 人間性の起源、人類の進化
- (4) 難易度 2
- (5) 進化に興味を持った人に、最初に読んでほしい本。ヒトに固有な特徴や性差について進化という軸を通して検討し、なぜ言語や文化を持つのか、ヒトの進化環境がどんなものだったかなどについて、領域横断的に考察する。第一人者が明晰かつ親しみやすい語り口で、進化という視点から人間の本性に迫る。
- (6) 推薦者 : 安井行雄 (農学部)

- (1) 長谷川真理子 (2009) 『動物の生存戦略 ー行動から探る生き物の不思議ー』左右社、ISBN: 978-4903500119 /ebook
- (2) 学問領域：動物行動学、進化生態学、行動生態学
- (3) キーワード：進化、適応、自然選択、性選択
- (4) 難易度 1
- (5) 動物の行動や習性には彼らが生き残りを賭けた競争の中で進化させてきた適応戦略がみられる。進化生物学の基礎を学びさまざまな動物の生き残り戦略を楽しみながら知ることができる本。
- (6) 推薦者：安井行雄（農学部）

- (1) 山田昌弘 (2019) 『結婚不要社会』朝日新聞出版、ISBN: 402295020X
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：近代家族、結婚
- (4) 難易度 1
- (5) 1996年に『結婚の社会学』を著した山田昌弘が、その後の20年超の変化をまとめたのが本著である。「結婚不可欠社会」としてはじまった近代社会が、現在の「結婚困難社会」へ移行し、将来的には「結婚不要社会」を迎えると予想する。「結婚」について考えたい人には必読の一冊である。
- (6) 推薦者：西本佳代（大学教育基盤センター）

- (1) 赤川学 (2017) 『これが答えだ！少子化問題』筑摩書房、ISBN: 9784480069368
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：少子化対策、希望出生率
- (4) 難易度 2
- (5) 巨額の税金が少子化対策のために使われているが、改善のきざしはほとんど表れていない。なぜ効果が表れず、少子化が進むのか。少子化問題の最終回答を試みるのが本著である。同じく赤川学著の『少子化問題の社会学』（2018年、弘文堂）、『子どもが減って何が悪いか！』（筑摩書房、2004年）をあわせて読んで理解を深めてほしい。
- (6) 推薦者：西本佳代（大学教育基盤センター）

- (1) 山田昌弘 (1996) 『結婚の社会学 未婚化・晩婚化はつづくのか』丸善ライブラリー、ISBN : 9784621052068 /ebook
- (2) 学問領域 : 社会学
- (3) キーワード : 近代家族、結婚
- (4) 難易度 1
- (5) 結婚に対する願望が強くみられる一方で、なぜ、結婚年齢が上昇し、独身者が増え続けているのか？このパラドクスを社会的に解き明かそうとするのが本著である。結婚とは、男性には「イベント」、女性には「生まれ変わり」等、1996年の著書でありながら、現在にも適用できる枠組みは多い。ぜひ、『結婚不要社会』とあわせて読んで、現在との相違を検討してほしい。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 山本順一編 (2013) 『新しい時代の図書館情報学』有斐閣、ISBN : 978464122083 /ebook
- (2) 学問領域 : 図書館情報学
- (3) キーワード : 図書館
- (4) 難易度 2
- (5) 図書館の意義と役割、制度等を分かりやすくまとめた入門的テキストである。電子書籍化に代表される高度情報社会において、図書館に何ができるのだろうか。本著を読んで、普段自分が使っている図書館について考察してほしい。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 本田由紀 (2021) 『「日本」ってどんな国？ - 国際比較データで社会が見えてくる』ちくまプリマー新書、ISBN : 9784480684127
- (2) 学問領域 : (教育) 社会学
- (3) キーワード : 現代社会、統計、ジェンダー
- (4) 難易度 1
- (5) 国際比較データを用いて、教育、経済、政治などの多様な側面から日本の現状を捉えた1冊。本書を読んで、自分の“あたりまえ”を問い直してほしい。
- (6) 推薦者 : 黒澤あずさ (ダイバーシティ推進室)

- (1) 大沢真理 (2020) 『企業中心社会を超えて—現代日本を<ジェンダー>で読む』 岩波現代文庫、ISBN: 9784006004224
- (2) 学問領域： 社会政策論、ジェンダー論
- (3) キーワード：ジェンダー、社会保障、労働、現代社会
- (4) 難易度 3
- (5) 1993年に刊行された本の文庫化であるが、本書が指摘する日本社会の“家族だのみ・大企業本位・男性本位”という特徴は、いまだ続いている。コロナ禍で明らかになってきたさまざまな問題と関連づけて読んでほしい。
- (6) 推薦者：黒澤あずさ (ダイバーシティ推進室)

- (1) 伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子 (2019) 『女性学・男性学 —ジェンダー論入門—』 (第3版) 有斐閣アルマ、ISBN : 9784641221222 /ebook
- (2) 学問領域： 社会学、ジェンダー論
- (3) キーワード：ジェンダー、フェミニズム、男女共同参画社会
- (4) 難易度 2
- (5) 版を重ねているジェンダー論入門書の一つ。家族、労働などさまざまな切り口から、ジェンダーについて自分事として考えられるきっかけとなるストーリー・マンガが掲載されている。コラムで取り扱っているトピックスにも注目してほしい。
- (6) 推薦者：黒澤あずさ (ダイバーシティ推進室)

- (1) 横山広美 (2022) 『なぜ理系に女性が少ないのか』 幻冬舎、ISBN : 9784344986763
- (2) 学問領域： 科学技術社会論、ジェンダー論
- (3) キーワード： ジェンダー、進路選択
- (4) 難易度 2
- (5) 個人の進路選択について、保護者や教員だけでなく、社会全体が作り出す「社会風土」の影響に着目したプロジェクトの研究成果をコンパクトにまとめた1冊。プロジェクトのメンバーは男女半々、専門も多岐にわたることも興味深い。
- (6) 推薦者：黒澤あずさ (ダイバーシティ推進室)

- (1) エンマ・ユング (著) 笠原嘉・吉本千鶴子 (訳) (2013) 『内なる異性—アニムスとアニマ』 バウンダリー叢書、ISBN : 9784875252931
- (2) 学問領域 : 心理学
- (3) キーワード : 男性性、女性性、古典
- (4) 難易度 3
- (5) 女性の中には内なる男性性「アニムス」が、男性の中には内なる女性性「アニマ」が存在するという説を耳にしたことはあるだろうか。ユング心理学における「元型論」を通し、内なる異性を統合することにより成される自己実現の在り方について述べられた書である。
- (6) 推薦者 : 大塚美菜子 (保健管理センター)

- (1) 濱田智崇・[男] 悩みのホットライン編 (2018) 『男性は何をどう悩むのか—男性専用相談窓口から見る心理と支援』、ミネルヴァ書房、ISBN : 978-4623082438
- (2) 学問領域 : 心理学
- (3) キーワード : 男性問題、男性相談
- (4) 難易度 2
- (5) 男性ならではの問題を、「相談」という切り口から示したのが本書である。相談担当者向けの専門書でもあり、社会問題だけでなく各事例に対する支援の実際についても書かれているのが特徴である。
- (6) 推薦者 : 大塚美菜子 (保健管理センター)

- (1) 河合隼雄 (2008) 『とりかえばや、男と女』 新潮社、ISBN:4106036169
- (2) 学問領域 : 心理学
- (3) キーワード : ジェンダー、深層心理
- (4) 難易度 2
- (5) 『とりかえばや物語』は、平安時代に描かれた男女逆転の物語である。「男らしさ」とは? 「女らしさ」とは? 物語からみえてくる、ジェンダーと性愛の深層を心理学の立場から読み解いていく。
- (6) 推薦者 : 大塚美菜子 (保健管理センター)

- (1) 柏木恵子 (2003)『家族心理学 ―社会変動・発達・ジェンダーの視点―』東京大学出版会、ISBN : 9784130120401 /ebook
- (2) 学問領域：心理学
- (3) キーワード：家族、親子、ジェンダー
- (4) 難易度 1
- (5) 時代と共に変化する「家族」を取り巻く諸問題について、文化心理学、ジェンダー論、進化心理学等の多角的な観点から論じている。家庭内での男女の役割、親子の役割についての自身の価値観と併せて捉えなおすきっかけとなる一冊だろう。
- (6) 推薦者：大塚美菜子（保健管理センター）

- (1) 高橋秀樹 (2004)『中世の家と性（日本史リブレット）』山川出版社、ISBN : 978-4634542006
- (2) 学問領域：歴史学（日本史）
- (3) キーワード：家族史、生活史、性差
- (4) 難易度 1
- (5) 日本中世の家族史・生活史について、女性史・男性史、あるいは性差の視点から、これまでに明らかになっている基本的な情報や歴史認識についてわかりやすく論じている。基本的な知識を身につけるのに適当な良書である。
- (6) 推薦者：守田逸人（教育学部）

- (1) 清水克行 (2015)『耳鼻削ぎの日本史』洋泉社、ISBN : 978-4-8003-0670-8
- (2) 学問領域：歴史学（日本史）
- (3) キーワード：身体刑、習俗、性差、人間観
- (4) 難易度 3
- (5) 前近代の日本列島で行われていた耳鼻削ぎの身体刑は、鎌倉時代の地頭の非法行為として高校の日本史教科書にも登場するなど、よく知られているところである。しかし、耳鼻削ぎの習俗は、おもに女性に対して行われた身体刑であることはあまり知られていない。本書は、その習俗が存在した歴史的意味を理解し、いまでも現実に世界で行われているこうした習俗について、考えるきっかけになるであろう。
- (6) 推薦者：守田逸人（教育学部）

- (1) 池上俊一 (2001) 『身体の中世』 筑摩書房、ISBN : 4-480-08666-8
- (2) 学問領域 : 歴史学 (西洋史)
- (3) キーワード : 身体、表象、感性、人間観
- (4) 難易度 3
- (5) 西洋中世社会における人間や人間の身体、あるいは目や耳など人間を構成する様々な部位等に対する認識のあり方、または人間の表情やしぐさのあり方について広く考察したものである。本書は「男と女」の論点にとどまらず広い視野で論が展開しているが、講義内容をふまえて「男と女」の視点から読み解くことで、様々な角度から「男と女」がどう認識されてきたか、理解を深めることができる。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 網野善彦 (2005) 『中世の非人と遊女』 講談社学術文庫、ISBN : 978-4-06-159694-8
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 心性、女性、差別、人間観、社会観
- (4) 難易度 3
- (5) 日本の歴史学が農業、とくに水田を軸とした社会の分析に力点を注いできたことに対し批判的な立場をとりつつ、職人などの非農業民や女性のあり方を考察してその歴史的 position について論じている。とくに、日本列島における「差別」意識の歴史的あり方やその変化のあり方について踏み込んだ検討をしておき、そうした問題について理解を深めるきっかけになるだろう。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 渡辺京二 (2005) 『逝きし世の面影』 平凡社、ISBN : 9784582765526 /ebook
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 異文化理解 ジャボニズム オリエンタリズム 多様性
- (4) 難易度 2
- (5) 本書は、19 世紀後半に日本列島を訪れた諸外国人がふれた当時の日本列島の景観、風習、文化についての記録と、それらに対する当時の諸外国人の目線からの評価、感想を集大成したものである。多くの外国人が、はじめて日本文化に接したときの衝撃がいろいろと描かれている。性差に対する考え方にも注目したい。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) ルイス・フロイス著／岡田章雄訳注（1991）『ヨーロッパ文化と日本文化』岩波文庫、ISBN：9784003345917
- (2) 学問領域：歴史学（日本史・西洋史）
- (3) キーワード：比較文化史（ヨーロッパ文化と日本文化）、心性、女性、男性、人間観、社会観
- (4) 難易度 3
- (5) 16世紀後半の戦国時代に日本にやってきたポルトガル人宣教師が、実際に戦国時代の日本列島を歩き回って得た日本文化の見聞録とヨーロッパ文化との比較論（邦訳版）である。外国人の客観的な目を見た戦国時代の日本文化に対する新鮮な驚きと同時期のヨーロッパ文化との比較論は、現代人にも大きな驚きを与え、男女の問題のみならず社会のあり方について深く考えさせられる。
- (6) 推薦者：守田逸人（教育学部）